

せいりょう園

[発行] 社会福祉法人はりま福祉会 特別養護老人ホームせいりょう園

〒675-0016 兵庫県加古川市野口町長砂 95-20 TEL 079-421-7156 FAX 079-421-6422

平成22年 7月 第113号 年間購読料1,000円(1部100円)

メール seiryoen@bb.banban.jp ホームページ <http://www.seiryoen.or.jp>

葬儀の主役は誰でしょう？

超高齢社会は、超多死の社会でもあり、多くのお年寄りが人生を締め括り、その葬送の儀式に参列する機会も増えています。その葬儀の席で最近、誰が主役なのか？と疑問を持つことが増えてきました。

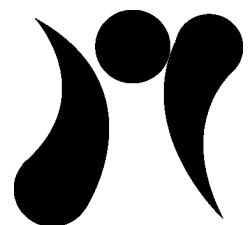
そして、葬儀の主役が見えづらいのは、亡くなったご本人が死に逝く道筋での主役ではなくなっている結果ではないか、と感じています。

年間の死亡者の82.6%が病院で亡くなる現在の状況下で、死を迎えた時に自宅に戻る事が殆どなくなり、多くが病院から葬儀場に直接向かいます。日常の生活から切り離された病院や葬儀場には、ご本人の暮らした痕跡が全く無く、医療処置や葬儀式の客体としては丁寧に扱われますが、その丁寧さの中で、生活の主役としての存在感が薄れてしまい、その結果が、葬儀式の様々な場面で表面化しているように感じます。

まず、ご香料を持参して受付に行くと、満中陰志との引換券が渡されます。仏教では死者は、死後49日の間あの世へも行けず、この世にも戻れず、中空を彷徨っている、と教えています。その間、この世に残った縁者は、7日毎にお祭りして死者を弔い偲び、7回を区切りとして、死者はあの世で成仏し、生者は日常の生活に戻る、とされています。

その区切りに当って、死者を偲ぶ一品を縁ある人に贈る慣習が、満中陰志として最近まで残っていましたが、近年になってその贈り方が急速に変化しています。死者への想いを託した一品を選び贈る過程と、其れを受取ったときの想いにこそ、縁のあった故人を偲ぶ心根が潜んでいるように思い、最近の風潮を残念に感じます。

《次ページに続く》



儀式が進行し僧侶による読経の途中に、弔電が披露されています。葬儀に参列した人の紹介が無い処で、参列していない人からの弔電を披露する事には、少々違和感があります。そして、導師の焼香に続いて、喪主、親族、参列者と続いて焼香していきますが、親族は参列者への、参列者は親族への礼の後に、ご遺体への礼と焼香に臨みます。葬儀式では、葬送の主役に礼を尽くし焼香する事を第一にして臨みたい、と願います。高齢者の介護に携わる我々は介護を通して、主役として人生を締め括る姿を見届けた後も、葬儀式を通して新たな旅立ちの主役として見送りたい、と心より願います。

故人が人生を締め括る際の覚悟を称え、その生き様に応える覚悟を示し、黄泉の国への新たな旅立ちを祝う、厳粛で神聖な場面が葬儀であり、多くの国々で葬儀式には宗教色が濃く反映されている根拠が其処に在る事を、最近強く感じています。葬儀に際しては世間の義理に応える前に、まず主役への礼を尽くす事を一番と心得て臨みたい、と常々考えています。

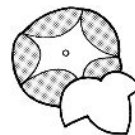
せいりょう園 渋谷 哲

せいりょう園 毎週の行事

- | | |
|---------|----------------|
| 月曜日 | のびのびルーム (自彊術) |
| 火曜日 | のびのびルーム (映画会) |
| 水曜日 | のびのびルーム (カラオケ) |
| | 音楽療法 |
| | 自彊術療法 |
| 木曜日 | のびのびルーム (自彊術) |
| 金曜日 | ピア/教室 |
| | 陶芸教室 造形教室 |
| 第2火曜日 | 折り紙教室 |
| 第1・3火曜日 | 書道教室 |
| 第2・4水曜日 | お話グループ・福寿草の会 |

せいりょう園 8月の行事予定

- | | |
|----------|----------------|
| 8月 2日(月) | 共生の会 |
| 8月 7日(土) | 園長との懇談 |
| 8月 8日(日) | 夏祭り |
| 8月13日(金) | お盆の法要 |
| 8月16日(月) | 美容の日(従来型) |
| 8月18日(水) | 昼食会(お好み焼き) |
| | 美容の日(ユニット型) |
| 8月23日(月) | 理容の日 |
| 8月27日(金) | 郷土料理(鮭の混ぜ寿司) |
| | 介護についてみんなで語ろう会 |
| | ～認知症サポーター養成講座～ |



～共生の会～

“望ましい介護”とはについて世の中の情報を幅広く話し合っています。毎月第1月曜日午後6時半から喫茶ラヴィックの図書コーナーで、近隣の方、ボランティア、介護職が集まり、会食しながらざっくばらん、自由におしゃべりしています。お気軽にお越しください。



講師 浄土宗龍泉寺 酒見 真尚ご住職

今月の仏教講話は加古川町平野、浄土宗、龍泉寺 酒見真尚ご住職に来て頂いた。冒頭、ご住職と『せいりょう園』、園長ご家族との関わりについて話された。話は40年前に遡る。別府の海岸が一斉に埋め立てられ、海水浴場が無くなった頃、子供たちの為に園長の父上(常務)が長砂市民プールの設置に関係され、ご住職も夏休み、連日のようにお世話になられたそうだ。実際私の小学生時代、5,6年生は毎年別府港へ海水浴に行っていた。野口小学校から徒歩で別府鉄道の野口駅まで歩き、そこから別府鉄道で別府海岸まで行って、一日海で遊んだ。そんなことを思い出しながら、ご住職と私の年齢の差、時代の違いを感じた。

また、ご住職の母方の伯父夫妻がリバティかこがわの3階で生活し、『せいりょう園』の介護サービスを利用して亡くなられたらしい。このような話を枕にいよいよ本題に。

「今日は播磨に生まれた江戸中期の俳人で、私の大好きな『滝 瓢水』についてお話したいと思ったのですが、以前、瓢水の菩提寺である別府町宝蔵寺の新見ご住職がお話されていましたので、今日は『私の命、私たちの命』についてお話したいと思います」予め配って頂いていた文章にそってお話を進められる。

『負け組など無い』

「最近『勝ち組・負け組』という言葉をよく耳にします。時流に乗り、先を読んで勝ち残る人のグループと、時流に乗り遅れた人のグループと対比したものと思いますが、優勝劣敗の現実社会の原則を露骨に肯定しているようで、聞いてあまり良い気がしません。しかし、出来ることなら負け組にはなりたくない、という思いが多くの人にあるのも事実です。

ところで、先日寺で保存している江戸期の過去帳を調べる必要がありました。一、二年分を繰ってみて、すぐに気づいた事は、子供の死者が極端に多いことでした。年間の全死者に占める子供の割合が半分であったり、三分の二もある年もありました。百数十年前の出来事なのに、子を亡くした親の悲しみが、その短い戒名から伝わってきて、胸がふさがる思いがしました。

医史学者の酒井シズさんの『病が語る日本史』によりますと、はやり病(疫病)が当時の人々を苦しめ、特に疱瘡(ほうそう)：【痘瘡(とうそう)・天然痘】は毎年のように流行し、死亡率が高く、こわい病気でした。地方によっては生まれた子が疱瘡を無事乗り切った時、初めて名前を付けたほどだと言います。又、麻疹(はしか)やコロリ(コレラ)やインフルエンザで命を落とすことも多く、体力のない子供の死者が自ずと多くなったようです。当時を考えますと、栄養状態が悪く生活環境も劣悪で、医療と言えるものがほとんど未発達時代に、私達の先祖は疫病の恐怖にさらされな

がらも生き抜いたのです。

その先祖たちによって命が受け継がれて、今私達の命となっています。その先祖の一人でも欠けていたなら、今の自分はもちろん存在しません。私達の命自体に、遠い過去からの先祖の、生きようという強い意志と願いが込められていると思うのです。そういう意味で、私達の命の重さに気づかされ人間の尊厳を思う時、『負け組』など誰一人として存在しないと言いたくなるのです。≫

そして実際にご住職ご自身の事をお話になられた。「私から四代前、7人の子供の内6人が疱瘡で亡くなり一人だけ生き残りました。私もそうして生き残った一人の男性の子孫なんです。厳しい環境に生き残ってくれたご先祖に感謝します。皆さんもきっとそうでしょう。我々一人一人の命はこのような過酷な過去を持つ貴重な、尊い命なのです。簡単に軽んじていい命なんて無いのです。」

有難うございました。八月は『仏教講話』お休みです。愈々、暑さも本番です。水分と睡眠をしっかり取り、頑張りすぎず、強かに乗り切りましょう。

せいりょう園待機者状況

＜平成22年 7月14日現在＞

○入所判定済み者 354名

グループの内訳

Iグループ…123名／IIグループ…142名／IIIグループ…72名

○入所判定済み者の現在状況

在宅124名／特別養護老人ホーム入所中9名／医療機関入院中102名

老人保健施設入所中81名／ケアハウス入居中6名／グループホーム入居中10名／不明5名

辞退その他

せいりょう園入所1名／他施設入所5名／死去11名

ケアハウス等空き情報 <平成22年 7月15日現在>

《ケアハウス》

・ 恵泉	: 若干	・ 第二ケアハウス恵泉	: 若干
・ あさなぎ	: 2人部屋1室	・ 沢ガ 御津	: 1人部屋2室
・ ケアハウスアリア	: 1人部屋8室 2人部屋1室	・ 青山苑	: 1人部屋1室 : 2人部屋2室
・ 香楽園	: 1人部屋4室 : 2人部屋1室		

[問合せ先]せいりょう園介護相談室 TEL(079)421-7156/(079)424-3433

介護についてみんなで語ろう会

テーマ「介護保険の施設紹介」

6月25日(金)

せいりょう園老人介護支援センター
社会福祉士 吉田 知一

せいりょう園の特別養護老人ホームの定員は50名です。50名のうち20名が二人部屋、残りの30名をユニット型の個室にしています。二人部屋も部屋の真ん中に間仕切りの壁を通し入口にカーテンを付けほぼ個室に近い状態にしています。

昔のイメージの老人ホームと現在の老人ホームとでは建物の環境もそうですが、介護に対する考え方も違っていると思います。今回の語ろう会では、せいりょう園のユニット型個室のお部屋を見学していただいて、皆さんのイメージにある老人ホームとどう違っているのか、昔と比べて「良いところ、悪いところ」について皆さんとお話しました。

○ユニット見学

参加者の方には、実際にユニット型の特別養護老人ホームを見学していただきました。
平成19年に新しく平屋で3棟建てました。1棟に10室、合計30名の方が生活されています。



ユニット型特養のフロアです。日中は出来るだけフロアに出てきていただいています。その人の生活スタイルに合わせて過ごされています。

このフロアを囲むようにお部屋が10室あります。



居室です。ドアを閉めてもらうと完全な個室になりプライベートの空間が確保されています。そして居室にはトイレがついています。

出来るだけ本人が使い慣れている家具などをご自宅から持ってきていただいて、自分の家として生活できるようにしています。

○グループワーク

「これからの施設の役割について、個室であることのメリット、デメリットについて」

- ・小規模や個室になることで生活空間が限定されてしまい、職員も利用者も逃げ場がなくイライラしてしまうのではないかな。
- ・施設の方針が良く分かった、お部屋が個室でプライベートが確保されていて一人一人が尊重されていると感じた。
- ・老人ホームの部屋にトイレがあって驚いた、広くてキレイで手すりもついていて良い。
- ・個室なので外からの目が入りにくいのでは？転倒していても気づかないことがあるのではないかな？

- ・個室で見守りが利かない部分は監視カメラをつければどうか？
- ・昔は特養に入所する人を気の毒に思っていたが、実際に施設の中を見るとそんなことはないと思った。
- ・想像以上に働いている人が美しい方ばかりで雰囲気が良かった。きつい仕事だと聞いていたが、皆さん物腰がやわらかくやさしい方ばかりだと思った。
- ・姑が今入っている施設では4人部屋で自分の私物の持ち込みが出来ない、他人と同じ部屋なので気を使う。
- ・台所から食事のにおいがして家庭的である。安心できる雰囲気がある。
- ・昔は老人ホームも病院というイメージだったが、部屋に表札がついていたり、番地がついていたり自分の家という感じがした。
- ・老人保健施設ではリハビリをする為に本人がしんどい時でも起きてもらっていたが、ここでは生活の場で本人が望まないことは押しつけず本人の思いを尊重しているのが分かった。

○感想

全国で特養の待機者は42万人（2009年厚生労働省調べ）もいらっしゃるそうです。せりょう園でも入所待機者が約330人いらっしゃいます。申し込んでもすぐには入所出来ない状態です。では、待機者の改善の為に施設をたくさん建てれば良いか、というと施設の利用が多ければそれだけ介護保険料が高くなりますし、施設入所の考えが一般化してしまうのも、本来の介護保険の考え方とは違うような気がします。大切なのは老人ホームはどうあるべきか、どんな役割を担っているのか？どこを評価するべきなのか？というところをはっきりさせてから取り組む必要があるのではないか、と思うのです。

今回のユニット型の個室を見学していただき、皆さんには「個人として尊重されている」ということが伝わった、と言っていただきました。個室になることでプライベートの空間が確保され、少人数の利用者を馴染みの職員が介護することで、より個別な介護をすることができるようになりました。しかし、一方で生活の範囲が限定されてしまい逃げ場がない、といった意見や個室になることで外からの目が入りにくいので部屋に監視カメラを付けてはどうか？という意見もありました。これは、プライベートな空間が確保され自分自身が社会人として尊重される、ということは一方で自分自身が背負うべきリスクも同時に引き受けただくことになる、ということです。しかしながら監視カメラを付ける場合、転倒するところがカメラに映っていたとしても次の瞬間には、もう転倒しているので未然に防ぐことは難しいと思われまます。未然に防ぐ為の対応を突き詰めて考えると行き着く先は拘束につながってしまう場合があります。

たとえ、リスクがあったとしてもチャレンジのできる生活を過ごしていく、それを見守ることが「尊重する」ということではないか、と思っています。個室や多床室に限らず、特別養護老人ホームという施設の役割は、「預かる」ということではなく改めてここで一人暮らしをしていただき、人生の締めくくりをしていただくところだと思っています。

生活の場において、様々なリスクはあるが一社会人として人間らしい生活を望むのか、それとも多少の拘束、抑制はあるが安心と安全な生活を望むのか。もし、自分自身が施設に入るなら皆さんはどちらの生活を選びますか？

次回の介護者の集いは？

- | | |
|---------|------------------------|
| 7月の語ろう会 | テーマ「介護保険のできること できないこと」 |
| 8月の語ろう会 | テーマ「認知症サポーター養成講座」 |

1年を振り返って

介護士 若松 健史

『この仕事を選んだ理由を述べてください』

面接時によく聞かれる質問ですが、さて皆さんはどう答えられたのでしょうか。また、今ならどう答えますか？私達の福祉にかかわらず、どの業種においても必ず聞かれる問いではないのでしょうか。新しく加わった仲間や部署異動等で加わった仲間にも同じような事を聞く事もあるでしょう。

私自身、過去よく聞かれ、そしてよく聞いたように思います。それは何故か…。理由が欲しいから。

それをする理由（もしくは意味）、それを選んだ理由（選んだ意味）…。何かの本で読んだように記憶していますが、『人の行動や存在には必ず何らかの理由』があるそうで。

上の問いに対する私の答えは、『周りの環境』でしょうか。生まれた時点で、同居ではないにしろ両親の祖父母が揃っており、その家に一人で泊まりに行ったり等、自分の周りにお年寄りがいる環境がありました。一緒に風呂に入ったり、食事を作ってみたり。当たり前だと思って育ったからか違和感なく選んだように思います。同世代の環境としては稀なケースかもしれません。

さて最近、私の担当していた入居者の方が亡くなりました。私が夜勤の当番でした。いつもと変わらず。いつものように巡回をしているの発見。色々考える事はありますが、きっと私の夜勤の番を待っていたのでしょう。男性介護者（ご本人は『男の子達』と言われていましたが）を好まれていたようにも思います。

介護保険の『サービスの選択』は、画期的でありながら、認知症の有無にかかわらず、少々お年寄りには難しい話かもしれませんし、そのご家族にとっても同じく悩まれる話でしょう。ご家族は、場合によっては親御さんのその先の運命を決めなくてはならない話ですし。私達としては、会社あるいは事業所の一員として、ある程度の介護環境を用意して、ご家族が選択すべき時に、確実に選ぶ事の出来るよう援助するわけで。限りない『納得』なのか、『ご本人らしい』のか、はたまた『ご家族の満足』か。すべてがきれいに収まるケースには、あまり立ち会えず。私よりもはるかに長い時間を過ごされているお年寄りを見て、『はてどうしたものか』と考えました。

私の信じているものの一つは科学です。そんな科学は『やってみなくては分からない。失敗は成功の母である』等と言います。信じるのも仕事でしょうか。私達の仕事は失敗出来ない場面の方が多いのですが、やはり、『やらなかった場合』結果は分かりませんし。奥が深い。きっとこのような話は、ドラマのように飲みながら語り合っても味があって素敵かもしれません。

きりがないので、最後に。

世の中、様々なスポーツがありますが、好きなスポーツは何ですか？

その競技に自分が参加しているとして、どこにあなたはいますか？

選手ですか？監督・コーチですか？観客席ですか？

ワールドカップに便乗して、サッカーならば私はMF（中盤）でしょうか。

花形のFWは若い人達に譲って。若い人達が伸び伸びやって、私からも何かを掴んでくれる事を願いつつパスを出す。

私達世代は、ミスをせずに、私（達）を応援し支えてくれている、お年寄りやご家族の期待に応えた毎日を提供すべきであろうと思います。（いつも応援ありがとうございます。なんて考えながら。）

私の部署はグループホーム。事業所内の組織内でも負けず、他所の事業所にも勝るとも劣らない自信はあります。平均年齢は少し高めですが…。

介護士 中村 美記

せいりょう園に入社し、早いもので1年が経ちました。介護の経験もなく、何も分からないまま研修期間が始まりました。

最初に大変だと思った事は利用者の名前と顔を覚える事でした。何度か間違えて利用者の方に怒られた事もありました。その後は利用者の方一人ひとりの状態と生活パターンを把握する事に苦勞しました。また、先輩職員に担当についてもらい介助のやり方を細かく教えてもらいましたが、なかなか覚える事が出来ず夜の9時近くまで残り教えてもらった事もあります。そうして何ヶ月か過ぎ、教えてもらった事を一人でするようになり、介護の仕事は本当に大変で、これから続けていけるのかと不安になった事もありました。

でも、利用者の方が「いつもありがとう」「これからも頑張っね」と笑顔で言ってくれます。他の職員もそうだと思いますが、利用者の方にそんな風に言ってもらえると、もっと頑張っ利用者の方の笑った顔がみたい、出来る限りの介護をして長く生きていてもらいたいと思うはずで。私は利用者の方と接するのが好きです。これからもずっとこの仕事を続けていきたいと思えるようになりました。

まだまだ足りない事が多く、先輩職員に注意されていますが、へこたれず前向きに取り組んで早く自分に自信をつけたいと思います。

介護士 田中 慎也

ここで勤めて1年が過ぎ2年目に入りました。始めの頃は緊張と戸惑いがあり、自分自身本当に頑張れるのか不安でいっぱいでした。業務を行っていても足が地についていないような感じであった事を今でも覚えています。そんな不慣れな僕に親切に教えてくれた先輩達にとっても感謝しています。

今でもいろいろ教わる事もあり、迷惑をかける事もありますが1年前より成長はしていると思っています。

現在では、新人職員もいるということもあり、教わる立場から教える立場にもなりました。この1年間で培ったものは、他の先輩達に比べると少ないですが、少しでも教える事が出来れば良いかと思っています。それと同時に今、自分に何が足りないのかを再度確認し、自身の成長にも繋げ、1日1日を頑張っしていきたいと思っています。

お詫びと訂正

先月掲載の「社会福祉法人はりま福社会役員名簿」の中で主な経歴が違っている方がおられました。

お詫びして訂正させていただきます。申し訳ありませんでした。

乾 暄次郎	誤	元民生児童委員協議会副会長
	正	民生児童委員協議会副会長